

令和5年度 ふくしまの農育「生きもの調査」

会津農林事務所では、「ふくしまの農育」推進事業で、田んぼや水路に生息する水生昆虫等を調査する小学校の活動を支援しています。令和5年度は、喜多方市立熱塩小学校にて「生きもの調査」事業を行いました。

6月27日、開始時間直前に天気予報どおり強い雨が降ってきて、急遽体育館での室内学習に切替えました。始めに、アクアマリンふくしまの春本講師から、田んぼの多面的機能や環境と生物との関係について、パワーポイントを使ってわかり易い説明がありました。次に、予め前日に小学校近辺で採取していた水生生物の実物を見せながら、学校裏の川に棲むカジカはきれいな水の生物指標となる貴重な魚であることや、田んぼにいるアメリカザリガニは元ワシガエルの餌として日本に持ち込まれたことなど、興味深いエピソードが語られました。

そして、講師が水族館から持参した希少な水生生物も加えて机に展示し、1年生から順にじっくりと観察しました。カジカ、アブラハヤ、ドジョウ、カワニナ、タニシ、ザリガニ、ヤゴ、ゲンゴロウ、タガメ、オタマジャクシ、カナヘビなどを目にし手で触れて、児童からは自然に疑問が湧き、それに春本・城倉両講師は丁寧に答えてくださいました。

最後に「カジカのことを知れてよかった。」「たくさんの種類の生き物があることがわかった。」「自然を大切にしたい。」等の感想が出され、自分達を取り巻く環境の豊かさや大切さに気づいた様子が見られました。

米の食味コンクール小学生の部で昨年金賞を受賞し、無農薬有機栽培でコメ作りに励んでいる熱塩小において、屋外での「生きもの調査」活動ができなかったのはとても残念でしたが、児童が自分達の学校や田んぼや周辺環境に誇りをもつ一助となった事業であったと、キラキラ輝く瞳を見ながら確信しました。

